

# ルーブリックによって協働する力を養う

## 中学校社会科公民の授業実践

### —役割分担や他者評価を補助的に用いて—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（社会）

畑山 貫映

本研究の目的は、中学校第3学年を対象に、グループ活動でルーブリックを用いて、役割分担や他者評価を補助的に行うことによって、生徒達の協働する力が高まるか否かを明らかにすることである。

方法は、2022年9月から10月にかけて、刈谷市立富士松中学校で4時間の授業実践を特定のクラスで行い、その成果について考察した。

その結果、役割分担を与えることで、生徒達が責任感を持ってグループ活動に参加することにつながり、ルーブリックの内容を理解した上でグループ活動を行ったことが協働意識を高めることにもなった。さらに、他者評価をすることが自らの行動を振り返るきっかけ作りにもなった。

一方で、生徒が成長したことでルーブリックの内容が生徒の実態に合わなくなったり、課題を達成出来ていないにもかかわらず生徒がそのことに気付いていなかったりした点が本実践の問題となった。

そこで、そのような問題を解決するためには、筆者は、生徒の成長にあわせてルーブリックを生徒自らの手でアップデートする活動や、何ができて何ができていないのかを教員の指導のもとで生徒達とふり返る活動が必要ということを明らかにした。

しかし、ルーブリックをアップデートするには多くの授業時数を費やさなければならぬのも事実であり、これらについての検討は今後の課題としたい。